

事例 35 「木の文化を支える森」の設定による資材の確保 (四国森林管理局 徳島森林管理署)



- ・徳島県三好市(みよし)
小島(おしま)国有林
- ・地元小中学生による苗木植栽
(令和4年7月)



- ・徳島県三好市
- ・祖谷(いや)のかずら橋
(令和4年7月)

徳島県三好市にある国指定の重要有形民俗文化財である「祖谷のかずら橋」は毎年約30万人を超える観光客が訪れ、地元の大きな観光資源となっています。同橋は3年に一度架け替えが行われ、その資材としてシラクチカズラのつるが使用されていますが、良質な資材が年々減少しているところです。

このため、徳島森林管理署は、良質な資材の安定的な確保を図るため、地域の関係団体と協定を締結し、木の文化を支える森「祖谷のかずら橋・架け替え資材確保の森」を設定し、シラクチカズラの増殖に取り組んでいます。

令和4年度には、地域の関係者の協力により植栽式を開催し、地元の小中学生が5年前から挿し木で育てたシラクチカズラの苗木(約100本)を植栽しました。

引き続き、地域の関係者と連携して「祖谷のかずら橋」の架け替えに必要なシラクチカズラの確保に努め、伝統文化の継承に貢献していきます。